

「難聴者・自立を」-補聴器、周辺機器編、ニュースリリース

NPO法人 ベターコミュニケーション研究会 (NPO-BCS)

情報バリアフリー・アドバイザー・中園秀喜

メール、nakazono@bcs33.com

### 毎年3月3日は耳の日です。取材のお願い

日頃は当研究会をお引き立て賜り厚くお礼申し上げます。

聴覚障害者は聞こえない、聞こえにくいいためこれらの情報が入らないからです。今、高齢者は3500万人いますが、うち半分は聴力が低下しています。国立長寿医療研究センターの発表では1500万人以上います。聴力が下がると生活上、いろいろな問題があります。例えば、テレビのボリュームを大きくして他の家族と喧嘩したり……文字放送を見ればいいのです。どこに相談すればよいのか。知らない人が多い。記者も知らない場合が多いでしょう。

①医療関係者の聴覚障害者に関する知識、理解の乏しさに困惑した。(聴覚障害者)

②社内に突然、聴覚障害者なった人がいて、どのように対応したらよいか困った。

その後、手話通訳の派遣やコミュニケーション機器の導入に際して国から援助があることを知った。もっと早く知っていれば良かった。行政は大切な情報を教えてくれなかったというより、担当者自身がコミュニケーションや情報バリアフリーを知らなすぎている。(ある企業の総務担当者)

③ ハローワークが派遣しているジョブコーチは手話も知らないし聴覚障害者に関する知識も乏しいので困る(聴覚障害者)

④国連「障害者の権利条約」により、会社的には「合理的配慮」をしなければならないが、情報＝聴覚障害者に関してはサポートしてくれる人が回りにいないので困る(サービス機関職員)。

⑤ 私は転勤してきたばかりで聴覚障害者に関するイロハも知らない。コミュニケーション問題や情報バリアフリーに関する情報がほしい(福祉事務所職員)

⑥ち肢体障がい者や視覚障がい者については知っていても情報バリアフリーについては何も知らない人が多い(福祉政策担当者)

これを解決するために中野区の助成金を受けて「難聴者・自立を」-補聴器、周辺機器編を出しました。実は昨年3月12日に公開する予定でした。ところが3月11日に東日本大震災が発生して東京、日経、時事とも全部パーになりました。押し入れに800部寝ているのです。内容的には新しいし、捨てるのは勿体ない。耳の日に絡めて特集を組むなどしていかしてもらえないだろうか。400円の切手代用は可(売り上げの一部は東日本大震災に寄付します)。興味があれば私までご連絡ください。上記にメールをお願いします。本を送ります。ご検討ください。